がん検診の解説

胃がん

罹患数：男性２位　女性４位
死亡数：男性２位　女性４位

（資料：がんの統計2021）

40歳以降になると、男性のほうが女性よりも、胃がんにかかる率やがんによる死亡率が高くなってきます。胃がんの場合は、早期はもちろん、かなり進行したがんであっても､全く症状のない場合が多くみられます。ただし､胃の中に潰瘍（ただれ）ができた場合は、胃痛などの症状があらわれやすくなります。

名古屋市の検診の方法：胃部エックス線検査 または 胃内視鏡検査

胃部エックス線検査
バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、エックス線で胃の形や粘膜を観察します。

胃内視鏡検査
内視鏡を口または鼻から挿入し、胃や食道を観察します。

このような症状があったら、検診ではなく、速やかに医療機関を受診しましょう

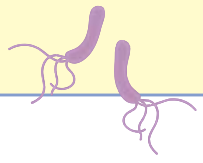
- 痛み　● 黒色便
- 胃部不快感　など

胃がんの原因

喫煙や食生活などの生活習慣や、ピロリ菌の持続感染などが胃がん発生のリスクを高めると言われています。

特に食生活については、塩分の多い食品の過剰摂取や、野菜・果物の摂取不足が指摘されています。

ピロリ菌について



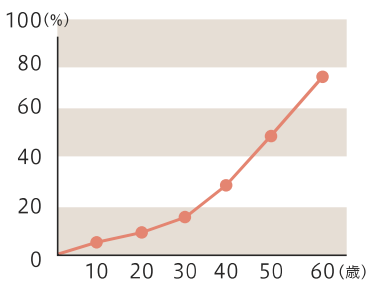
感染経路や感染率は？

◆免疫機能が未発達で胃酸分泌の少ない**乳幼児期に感染**します。
◆上下水道が整備され、衛生環境が大きく改善した現代では、家庭内感染が主な感染経路であると考えられています。
◆そのため感染率は**出生年代によって大きな差**があります。

検査や治療法は？

◆血液や尿を用いてヘリコバクター・ピロリの**抗体検査**をする方法が多く用いられています。
◆陽性判定の場合、内視鏡検査を行い、ピロリ菌の感染を確認したうえで、抗生物質等を服用する**除菌治療**を行います。

●年代別ピロリ菌感染率



菊地 正悟：わが国におけるHelicobacter Pylori感染率の推移とその影響
Helicobacter Pylori 19:439-444より引用

⇒ピロリ菌検査（P15）を受けましょう

がん検診の解説

大腸がん

罹患数：男性３位　女性２位
死亡数：男性３位　女性１位

（資料：がんの統計2021）

大腸がんにかかる率は、40歳頃から増加し始め、高齢になるほど高くなります。また、がんにかかる率や死亡率は、ともに男性のほうが女性よりも高くなっています。

大腸がんの増加は欧米型の食生活へ変化したことが原因と考えられています。

大腸がんの場合は、排便に関する症状が多くみられますが、血便などは良性の疾患でもみられる症状のため注意が必要です。

がんやポリープから毎日出血している訳ではないため、いつも便に血が混ざるとは限りません。年に１回検診を受けることが大切です。

名古屋市の検診の方法：免疫便潜血検査（2日法）

大腸にがんやポリープなどがあると、出血がみられることがあります。検便により、大腸内の出血の有無を調べます。精度を上げるため、２日分の便を検査します。痔や、歯ぐきからの出血でも陽性になることがありますが、陽性と判定された方は、必ず精密検査を受けるようにしましょう。

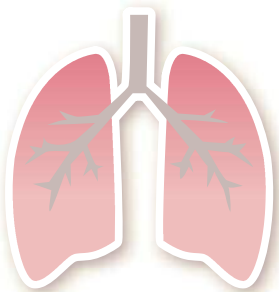
なお、名古屋市の大腸がん検診では、内視鏡検査は実施しません。

このような症状があったら、検診ではなく、速やかに医療機関を受診しましょう

- 血便
- 便が細くなる
- 残便感
- 腹痛
- 下痢と便秘の繰り返し
- 貧血
- 体重減少　など

がん検診の解説

肺がん・結核



肺がん罹患数：男性４位　女性３位
肺がん死亡数：男性１位　女性２位
（資料：がんの統計2021）

肺がんにかかる率は、40歳代後半から増加し始め、高齢になるほど高くなります。また男性のほうが女性よりも高くなっています。

喫煙は肺がんに罹患するリスクを高めます。禁煙を心がけるとともに、たばこを吸う方は特に検診を受けるようにしましょう。

また結核は、現在でも全国で年間約１万３千人が発病し、約２千人の方が亡くなっており、けっして「過去の病気」ではありません。早く見つけて治療をすることで治る病気なので、毎年検診を受けましょう。

名古屋市の検診の方法：胸部エックス線検査（必要な方には喀痰細胞診）

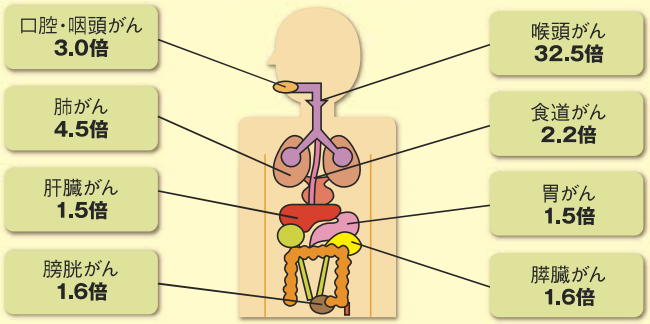
胸部エックス線検査では、肺全体のエックス線撮影をします。

たばこを長い期間、多く吸っている方には喀痰細胞診も行います。この検査は、痰を採取し、気管支などから混じり出るがん細胞の有無を調べるものです。

たばことがんの関係をご存知ですか？

たばこは全身のほとんどのがんの発生と関わりがあります。

非喫煙者と比較して喫煙者（男性）のがんによる死亡は何倍高いか



※平山雄 計画調査（1990）より

このような症状があったら、検診ではなく、速やかに医療機関を受診しましょう

- なかなか治りにくいせきや胸痛
- 呼吸時のゼーゼー音
- 息切れ
- 血痰
- 声のかれ
- 顔や首のむくみ　　など

がん検診の解説

子宮がんには、子宮頸（けい）がんと子宮体がんの２種類があります。

子宮がん

罹患数：女性５位　死亡数：女性８位

（資料：がんの統計2021）

子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮の入り口（頸部）に発生するがんです。がんにかかる率（上皮内がんを含む）は若年層で増加傾向にあり、20歳代から30歳代で最も高くなります。

子宮頸がんは主に性行為で感染するＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス）が原因であり、一般的には性交渉の経験がある方が検診の対象となります。性交渉の経験のない方は検診を受診する前に医師に相談してください。

子宮体がん

子宮体がんは、子宮本体（子宮体部）の内膜から発生します。

子宮頸がん検診を受診する際に、最近６カ月以内に●不正性器出血（一過性の少量出血、閉経後出血など）●褐色のおりもの●月経異常（過多月経、不規則月経など）のいずれかの症状があった方については、まず医療機関での診察をおすすめしますが、医師が必要と判断し、受診者ご本人が同意された場合、子宮頸がん検診に引き続き子宮体がん検診（子宮内膜細胞診）を受診できます。

名古屋市の子宮頸がん検診の方法：視診・内診・細胞診

視診・内診　内診台にあがり、医師が視診と内診を行い、子宮全体と卵巣・卵管の状態を確認します。

細胞診　子宮頸部の細胞を綿棒などで採取し、異常な細胞がないかどうかを調べます。

このような症状があったら、検診ではなく、速やかに医療機関を受診しましょう

子宮頸がん
- 月経とは無関係な出血
- 性行為の際の出血
- ふだんと異なるおりもの
- 月経の量が増えたり、長引いたりする　など

子宮体がん
- 月経とは無関係な出血
  （特に閉経後に少量ずつ長く続く出血）
- ふだんと異なるおりもの
- 排尿痛や排尿困難
- 下腹部痛　など

がん検診の解説

乳がん

罹患数：女性１位　死亡数：女性５位

（資料：がんの統計2021）

女性の乳がんにかかる率や死亡率は年々増加しています。日本人女性の９人に１人は乳がんにかかるといわれており、30歳代から増加し始め、40歳代から60歳代にかけて最も多くなります。

初経年齢が早い、閉経年齢が遅い、出産歴がない、初産年齢が遅い、授乳歴がない、閉経後の肥満、飲酒、運動不足といったことが発症リスクを高めます。

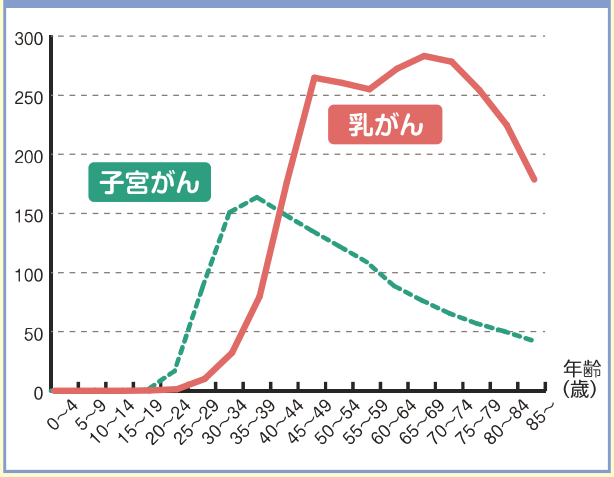
名古屋市の検診の方法：乳房エックス線検査（マンモグラフィ）

透明なプラスティックの板で乳房を圧迫して、触ってもわからない程度の初期の乳がんを発見できる乳房専用のエックス線撮影です。

なお、名古屋市の乳がん検診では超音波検査（エコー）は実施しません。

※視診、触診を実施する場合があります。

乳がん・子宮がんの年齢別罹患率（人口10万対）
※上皮内がんを含む



国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）より

乳がんと子宮がんの罹患率は20歳代、30歳代から徐々に高くなります。
乳がんでは40～60歳代が最も高くなります。

このような症状があったら、検診ではなく、速やかに医療機関を受診しましょう

- 乳房のしこり
- 乳房のえくぼなど皮膚の変化
- 乳房の近く（わきの下や鎖骨あたり）のリンパ節のはれ　など

しこりを見つけてもすべてが乳がんであるというわけではありませんが、自覚症状を認める場合は専門医がいる医療機関を受診しましょう。

ブレスト・アウェアネスをはじめましょう

ブレスト・アウェアネス（乳房を意識する生活習慣）って？

女性が乳房の状態に日頃から関心を持つことにより、乳房の変化を感じたら速やかに医師に相談するという正しい受診行動を身に着けるためのキーワード

大切な４つのポイント

1 ご自分の乳房の状態を知る：乳房を見て、触って、感じる

乳房チェック

着替えや入浴、シャワーなどの際に乳房を見て、触って、感じて、乳房を自覚することです。
生活習慣に乳房を気軽に意識することを取り入れるだけです。

入浴時やシャワーで体を洗う時

寝る前に仰向けに寝た時

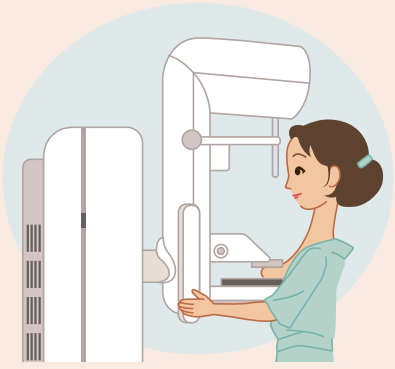
2 乳房の変化に気をつける

チェックすべき乳房の変化

- ☑ 乳房の腫瘤（こぶ・かたまり）の自覚
- ☑ 乳頭や乳輪のびらん（ただれ）
- ☑ 乳房痛
- ☑ 乳頭からの分泌物
- ☑ 乳房の皮膚の凹みやひきつれ

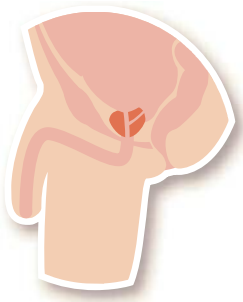
3 変化に気づいたらすぐ医師へ相談

4 40歳になったら2年に1回乳がん検診



がん検診の解説

前立腺がん



罹患数：男性１位　死亡数：男性６位

（資料：がんの統計2021

前立腺（精液の一部をつくる臓器）は男性だけにあり、膀胱の下で直腸の前にあります。前立腺がんにかかる率は、55歳以上で増加します。

他のがんと同じように、早期の前立腺がんに特有の症状はありません。あるとしてもその多くは、前立腺肥大症に伴う症状です。進行すると骨に転移しやすいがんなので、前立腺自体の症状はなくても、腰痛などで骨の検査を受けて、前立腺がんが見つかることもあります。

名古屋市の検診の方法：PSA検査

血液中の前立腺特異抗原（PSA）の値を測定します。

PSAとは…

PSAは、前立腺がんになると血液中に増加する物質であるため、PSA値が高いほど前立腺がんが疑われます。

ただし、PSA値が高ければ、必ずがんであるというわけではありません。あくまでも、前立腺がんを発見するきっかけとなる一つの指標です。

このような症状があったら、検診ではなく、速やかに医療機関を受診しましょう

- 排尿困難（尿が出にくい）
- 頻尿（尿の回数が多い）
- 残尿感（排尿後でも尿が出きらないで残った感じがする）
- 尿意切迫
  （尿意を感じるとトイレにいくまで排尿をがまんできない状態）
- 夜間多尿
- 下腹部不快感　　など